

競 技 注 意 事 項

1. 本競技会は 2022 年度日本陸上競技連盟競技規則および本大会申し合わせ事項により行う。

2022 年 1 月 1 日に WA 競技規則 TR 5 の改正と、新たに「競技用靴に関する規定」が導入されたことに
基づき、靴底の厚さのチェックは実施しない。ただし、審判長及び競技役員はいつでもシューズチェックを
することができ、競技者はその指示に従わなければならない、明らかに規則・規定違反のシューズや疑わしい
シューズは、チェックや回収の対象になることがある。競技後にシューズの違反が認められた場合は、審判
長が「失格」と判断し、記録が取り消される場合がある。(スパイクピンのチェックは 1 次招集時に行う。)

○靴底の厚さに関する規定(TR5.13.3) 表

種目	靴底最大の厚さ (TR5.5TR5.13.3)	要件・備考
フィールド種目 (除：三段跳)	20 mm	投てき種目と三段跳を除く跳躍種目に適用する。 全フィールド種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、 踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
三段跳	25 mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚 さを超えてはならない。
トラック種目 (ハードル種目を含み、800m 未満の種目)	20 mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。
トラック種目 (障害物競走を含み、800m 以上の種目)	25 mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。 (競技場内で行う競歩競技の靴底の最大の厚さは 40mm)
競技場内で行う競歩	40 mm	
道路競技 (競走・競歩)	40 mm	

※フィールド競技用靴における「靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは踵の中心点の靴底の厚さを超えては
ならない。」の規定については、適用除外とするが、その他の規定(靴底最大の厚さ)は、遵守すること。

2. 競技場への入場について

○入場制限を緩和し、部員の人数・時間の制限を設けない。但し、入場は部員・顧問(監督・コーチ)・保護
者・役員のみとし、以下の要領で、入場者の把握・管理を行う。

(1) 部員は、顧問が作成した「部員登録証」を入場の際に提示する方式とする。最初の入場のみ、
1F 正面入口とし、再入場・退場は、マラソングートのみとする。

※「部員登録証」は、顧問宛にデータ送信したものを各校が作成し、今年度の大会を通じて使用すること。

(2) 顧問・監督・コーチは「日本陸連公認審判員証」または「顧問証」を入場の際に提示すること。
「顧問証」は大会時に発行するが、以降の大会にも使用するので保管すること。

(3) 「体調管理チェックシート」の個人ごとの提出は不要とするが、顧問が集約・管理をし、それをもとに
「大会入場者一覧表」を作成し、代表者が出場初日の学校受付時に提出(1F エントランス)すること。
2 日にわたる本大会の場合も入場者を 1 枚の一覧表にまとめて作成すること。大会総務の指示により、
「体調管理チェックシート」の提出を求めることがあるので、各日の入場者については、顧問で把握・管
理すること。

○大会来場後 2 週間以内に発熱等の体調不良が発現した場合は、顧問へ連絡し、顧問は速やかに地区主任へ
報告すること。

3. 練習について

- (1) 練習はバックスタンド後方(東側)の練習走路を使用すること。走る方向は北から南の一方通行とし、逆走は禁止する。個人のハードル等は持ち込まないこと。また、ゴムチューブ等を使ったスピード練習は禁止する
- (2) 競技会開始前のトラックを利用した練習は、競技開始の30分前までとする。
[ホームストレート・バックストレート] (ジョグはレーン外)
・2~5レーン=コーナーからのスプリント練習 ・6~9レーン=直線からのからのスプリント練習
※順番待ち等は密を避けるように距離を保って待つこと。
- (3) 競技場内、公園内でのリレー練習は一切認めない。
- (4) ハードル種目の練習は、競技開始前にハードル設置後に行うこと。
- (5) 競技場内はメディスンボールなど、物を投げる練習は禁止とする。
- (6) 走高跳、走幅跳、三段跳は準備が整った後、競技役員の指示で練習してもよい。

4. 招集について

※招集所へのスマートフォン・携帯電話等の通信機器の持ち込みは禁止する。

※下記の時間帯に招集を完了できなかった場合は出場できない。

(1) 一次招集 (室内練習場)

- ・トラック種目 : 競技開始時刻の60分前開始 30分前完了
- ・フィールド種目 : 競技開始時刻の90分前開始 60分前完了 (棒高跳のみ120分前開始 90分前完了)
- ・上半身競技服装(アスリートビブスを付けていること)になり、スパイクチェックを受け、腰ナンバーを受け取る。

※同一日に他種目に出場する場合、**種目ごとに一次招集を受けること。**

※同時間帯に競技が行われる場合には、多種目同時出場届を一次招集開始までに招集所へ提出する。

なお、一・二次招集ともに代理をたてる必要はない。

(2) 二次招集 (現地)

- ・トラック種目 : 競技開始時刻の15分前開始 10分前完了
- ・フィールド種目 : 競技開始時刻の50分前開始 40分前完了 (棒高跳のみ70分前開始 60分前完了)

(3) リレーについて

- ・オーダー用紙の提出締め切りは、**第1組の一次招集完了時刻の1時間前**までに競技者係へ提出。
- ・リレーの一次招集は4人揃って受け、他種目に出場している時は、多種目同時出場届を提出すること。

(4) やむを得ず欠場する場合は、プログラムにある欠場届を競技者係へ提出すること。

5. 競技について

- (1) アスリートビブスは必ず胸部と背部につけること。ただし、跳躍競技は胸部または背部だけでよい。トラック種目では、腰ナンバーカードをパンツの右側や後方に付けること。なお、4×400mリレーの第2・第3走者は、次走者の待機順を明確にするため、右側に腰ナンバーカードをつけること。また、男子5000m・5000mW、女子3000m・5000mWについては別ビブスを使用する。
- (2) スパイクのピンは、本数は11本以内とし、9mm以下のものを使用すること。ただし、走高跳・やり投については12mm以下とする。また、スパイクの直径は先端近く(少なくとも長さの半分)で、4mm四方の定規に適合するように作られていなければならない。

- (3) トラック種目では、すべてタイムレースとする。
- (4) 短距離競走は、フィニッシュラインを過ぎてもレーンに沿って走ること。
- (5) 長距離競走について
- ①5000m、3000m、5000mW は、二段階スタートを行うことがある。グループ分けは出発係の指示に従うこと。
 - ②コーンを使用してフィニッシュと周回を分ける場合がある。競技役員の指示に従って3レーンよりアウトレーンでフィニッシュすること。
 - ③5000m18分30秒・3000m13分30秒・3000SC13分00秒を超えて次の周回に入ることができない。審判長により競技を打ち切る。5000mW は、男子・女子ともに30分00秒を超える場合は、審判長判断で競技を打ち切る場合がある。
- (6) 競技エリア内に通信機器（携帯電話等）やビデオ撮影機器（タブレット等）を持ち込んで서는ならない。また、競技エリア内で助力を与えたり受けたりしている競技者は失格の対象となる。フィールド競技中に競技者が、それ以前の試技の映像を、録画再生機器などをスタンドからの手渡しや吊り下げる等により競技エリア内に持ち込むことは認めない。
- (7) 集団での声援（応援）及び不正な助言行動は自粛すること。
- (8) フィールド種目について
- ①トップ8は行わない。
 - ②走幅跳・三段跳におけるカットラインは当日に跳躍審判長と主任で決定する。
 - ③走幅跳・三段跳は1組（メインスタンド前トラック側）、2組（メインスタンド側）で行う。走高跳は第一曲走路内側のメインスタンド側を1組、バックスタンド側を2組とする。棒高跳は第二曲走路外側の北ピットで行う。棒高跳は第二曲走路外側の北ピットで行う。
 - ④バーの上げ方は下記のとおりとする。※走高跳・棒高跳とも練習の高さは当日現地で決定する。

男 走高跳	2年：現場判断 練 1.55-1.60-1.65-1.70-1.75-1.80 以降3cmずつ
	1年：現場判断 練 1.50-1.55-1.60-1.65-1.70-1.75-1.80 以降3cmずつ
女 走高跳	2年：現場判断 練 1.25-1.30-1.35-1.40-1.45-1.50 以降3cmずつ
	1年：現場判断 練 1.20-1.25-1.30-1.35-1.40-1.45-1.50 以降3cmずつ
男 棒高跳	1・2年とも：現場判断 練 2.60-2.80-3.00-3.20-3.40-3.60 以降10cmずつ
女 棒高跳	1・2年とも：現場判断 練 2.00 以降10cmずつ

- ⑤砲丸投を除き、投てき種目の計測は、ベスト記録のみを計測する。
- ⑥投てき競技や棒高跳びの滑り止めについては、主催者は準備しないので、個人で持参すること。

(9) フィールド競技の試技制限時間（単独種目）

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上	1分	1分	1分
2~3人	1分30秒	2分	1分
1人	3分	5分	—
連続試技※	2分	3分	2分

※4人以上または各競技者の最初の競技

※走高跳・棒高跳では、残っている競技者が二人以上で、同一の高さの時のみ適用する。

5. やり及びボール以外の競技用具は、競技場備え付けのものを使用する。やりの検定は、競技開始時刻の90分前より30分間、用器具庫（メインスタンド下南側）で行う。

6. 各種目・各学年6位入賞者に表彰状があるので、表彰係まで取りに来ること。

7. 競技場の使用について

(1) 競技者・付添等の関係者は指定された出入口から入退場すること。

(2) 感染予防に配慮し、声を出しての応援（ラップタイムの読み上げを含む）、スタンド最前列及び中央通路での立ったままの観戦も禁止する。

(3) 横断幕、ノボリの設置はすべて禁止する。

(4) 以下の箇所にはテントを設置しないこと。

①南北の芝スタンド（土盛スタンド）の中段より下

②メインスタンド中段通路より下側およびメインスタンド屋根下

③メインスタンド記者席からフィニッシュ側の4ブロックエリア

※テントを設置する際に、ロープ等が通路にかからないようにすること。

(5) 使用した場所は各学校で責任を持って清掃し、ゴミ等は必ず持ち帰ること。

(6) トラック、フィールドおよび練習走路以外でのスパイクの着用は禁止する。

(7) 更衣室は6～10名以内で更衣のみの利用とし、マスクを着用して会話しないこと。使用時間は1人5分以内とする。また、清潔に使用し私物を置かないこと。

8. 免責事項について

(1) 競技中に生じた事故については、応急処置の他一切の責任を負わない。

(2) 新型コロナウイルス感染症の感染状況により急遽、競技会について変更になる場合がある。

(3) 競技会に関わる全ての人の感染に対するいかなる責任も負わない。

(4) Jアラート警報が発令された場合は、競技を中断する場合がある。

9. その他

(1) 顧問の受付がない学校の競技者の出場は認めない。

(2) **プログラムの配布冊数は参加人数より決める。冊数は別頁に記載してある。**

(3) 記録は、電光掲示板およびWEBページで確認すること。（記録ボードは設置しない。）

(4) すべての競技者は、競技中もしくは試技中以外はマスク着用を徹底し、競技終了後に手洗い・消毒を行ってから退場すること。

(5) 声を出しての応援は禁止する。

(6) 盗難の発生や忘れ物に注意し、荷物等の管理は各校で十分注意すること。

(7) 当日はゴミ箱を撤去しているので、ゴミはすべて各自持ち帰ること。

(8) プログラム記載の個人情報（氏名、学校名など）および大会結果は、大阪陸上競技協会のWEBサイト（大阪高体連陸上競技専門部3・4地区）に記載されるが、本大会関係以外には一切使用しません。

第 77 回大阪高等学校総合体育大会陸上競技の部（中央大会）について

日程：8月16日（火）・8月17日（水）・8月18日（木）

場所：ヤンマーフィールド長居

1. 大阪高校総体への出場者は以下のとおりである。
 - ①リレーと競歩を除くトラック種目は1・2地区で上位24名、3・4地区で上位24名の合計48名。
 - ②フィールド種目は1・2地区で上位16名、3・4地区で上位16名の合計32名。
 - ③4×100mR、4×400mRについては1・2地区で上位32校、3・4地区で上位32校の合計64チーム。
 - ④競歩種目は地区予選会において4つの地区の記録上位者とシード選手の合計30名。
 - ⑤全国インターハイに出場する者はシードされ参加申込種目すべて大阪高校総体に出場できるが、この大会には出場できない。但し、4×100mRはオープン参加できる。
※シード権を放棄し出場することもできる。
 - ⑥地区予選会申込時にエントリー数が①②③④の予選会通過人数を下回る場合は全て本大会に出場できる。尚、エントリー数が一方の地区で①②③④の予選会通過人数に満たない場合、もう一方の地区からの大阪大会出場枠を増やす。
 - ⑦その他詳細については各地区主任より連絡する。

2. 中央大会の出場辞退について
 - ・大会2日目終了後20分以内に地区主任に辞退届を提出すること。辞退届の提出なき場合は出場する意志があるものとする。今大会終了後の辞退は受け付けない。

3. リレーメンバーの変更について
 - ・中央大会に出場するリレーのエントリーメンバーを、今大会のエントリーから変更する場合は、今大会終了までにリレーメンバー変更届を地区主任へ提出すること。今大会終了後の変更は受け付けない。（変更のある場合のみ提出すること。変更のない場合は提出しない。）

4. 同記録が出た場合
 - ①トラック種目については規則第167条に従う（資料あり）。
 - ②走幅跳、三段跳、砲丸投、については、セカンド、サード記録で決定する。
 - ③円盤投、ハンマー投、やり投、走高跳については、抽選とする。

資料

規則第167条 同成績

- 2.（着順ではなく）時間を元にして166条3（b）によるランキングの順位が同じ場合は、写真判定員主任は0.001秒の実時間を考慮しなければならない。それでも同じであれば同成績とし、ランキングの順位を決める抽選を行う。

上記 規則により1/1000秒着差あり それでも着順が判定できないときは、抽選により中央大会出場者を決定する。